

## 平成25年度第1回京都市政策評価委員会 摘録

日 時：平成25年12月26日（木）午前10時～12時15分

場 所：職員会館かもがわ 第5会議室

出席者：京都市政策評価委員会委員

河村委員長，窪田副委員長，大島委員，風間委員，福西委員，横井委員  
事務局

大瀧京都創生推進部長，西尾政策企画課長，田近企画係長

### 1 開会

河村委員長

政策評価制度が本格的に開始して10年となるため，何らかの節目になると考えている。昨日，総務省や他都市の政策評価に関する資料を読んでいたが，京都市が一番充実しているのではないかと感じた。また，インターネットで自治体の政策評価を検索したところ，京都市の取組が検索結果の上位に並んでいた。すごいことだと思っている。こうしたことから，京都市の政策評価制度は見られる立場にあると考えており，よりしっかりとやっていかなければならないという思いである。

本日はよろしく願います。

### 2 議事

#### (1) 平成25年度の政策評価の流れ

河村委員長

議題（1）平成25年度の政策評価の流れについて，事務局から説明をお願いします。

事務局

【資料1（平成25年度の政策評価の流れ）により説明】

河村委員長

ただ今の説明について，何か御質問や御意見等はあるだろうか。

（意見なし）

河村委員長

特に御意見がないようなので，次の議題に移る。

(2) 平成25年度の政策評価の改善状況及び政策評価結果

河村委員長

議題(2)平成25年度政策評価の改善状況及び政策評価結果について、事務局から説明をお願いします。

事務局

【資料2(平成25年度政策評価の改善状況)・資料3(平成25年度政策評価結果)により説明】

河村委員長

昨年度の委員会意見を踏まえた改善が図られた。特に市民生活実感調査の政策重要度の設問については、回答形式の変更により、見やすくなったと思う。

何か御意見等はあるだろうか。

大島委員

参考資料4の新たに追加した指標は、担当している部局が検討し、追加したのか。

事務局

毎年度の政策評価票の作成を依頼する際に、総合企画局から各担当部局に客観指標の見直し案を投げかけてはいるが、それらの提案も踏まえ、基本的には各担当部局において検討され、追加したものである。

横井委員

指標の追加による効果は見られるのか。

事務局

例えば、政策分野「くらしの水」については、以前から評価結果が高い分野ではあるが、2つの客観指標を追加し、今回も高い評価となっている。

大島委員

追加された指標は、もっともな指標という印象である。

事務局

補足であるが、政策企画室と大学コンソーシアム京都の合同で実施している「未来の京都創造研究事業」において、市民生活実感調査に御協力いただいている大学の若手研究者から客観指標の御提案を頂き、各局に投げかけている。全てが指標として設

定されたわけではないが、提案を踏まえて検討されている。

#### 風間委員

気になる点としては、うがった見方ではあるが、評価結果が低い分野について、各部局が評価結果が上がるような客観指標を提案してきた場合にどうするのか。また、逆に言えば、不要な指標がある場合、削除するという考え方もあるかもしれない。

客観指標の結果が全体の政策結果に反映されるため、どのようにケアしていくか、ということが大切である。

#### 事務局

客観指標については、一定の視点の下、全体的な確認をしているが、全ての客観指標について精査していくのはなかなか難しい。客観指標の設定が難しい分野もあり、より良い指標がなかなか見つからないといったものもある。統括局としては、政策や施策との関連性も留意しつつ、所管部局にとって事業改善などに効果のある指標であるのか、などの視点も考慮すべきと考えている。

#### 福西委員

客観指標の削減の観点も大事。市民実感評価と乖離しているなど、実態にそぐわない客観指標を変更した方がよいのではないか。一方で、評価の継続性の問題もあるため、毎年度変更することはないが、一定期間経過を見て、指標を置き換えていくことも必要。継続性を保ちながらも、適切な指標に入れ替えていくことも大切ではないか。

#### 窪田副委員長

確認だが、客観指標の判断については、政策評価委員会ではどこまで審議すべきなのか。審議方法としては、委員がそれぞれの観点から指標を見て、あまりにも違和感のある指標などは来年度から使用しない、といった形になると思うが、取扱いについて、今後のために確認しておくのがよいのではないか。

#### 事務局

総合企画局は政策評価制度の統括局として全体のバランスなどの観点から客観指標の確認をしているが、基本的には事務事業の所管局が見直しを進めていくべきものである。

政策評価委員会との関係では、評価結果に対して御意見を頂くことが基本であり、関連して、指標の適切性に関する御意見を頂くこともある。

前述のように、乖離の問題も含めて、客観指標の設定は非常に難しいが、非常に重要であるため、事務局としては、今後、委員から御助言を頂いたうえで所管局と調整

しながら適切な指標を設定できるよう、進めていければと考えている。

政策評価委員会においては評価結果の御報告が中心にはなるが、できる限り客観指標に関する御助言も頂きたい。

窪田副委員長

政策評価の手法に対する助言と提案の範疇と確認させていただいた。現段階から意見があれば言うておいて、うまく調整できれば、来年度から活かすことができるかもしれない。委員会の場以外でも意見を出すことはできるが、指標の増加や継続性に対する御意見もあり、加減が難しい。

福西委員

政策によって、客観指標の多寡がある。指標が少ない分野は、自分でも考えたことがあるが、なかなか適当なものがない。分野によって濃淡があり、主観的な要素も入ってくると思う。設定が容易な分野はよいが、指標が少ない分野をどうするかといった問題もある。

河村委員長

この間、一つしか指標がない政策については、複数の指標を設定するなど、指標が少ないものはなるべく増やしていこうという目標で進めてきた。

委員会として指標を見るとすれば、ある程度全体的に平均的に見ていくということが考えられる。

風間委員

これまで、事務局から客観指標が不要ではないか、こういう指標を設定した方がよいのではないかと行った投げかけを行った事例はあるのか。

事務局

前述のように、政策評価の作成依頼時や未来の京都創造研究事業との関連で、指標の提案を行ってきた事例はある。ただ単に増加させればよいわけではなく、効率化といった視点から指標の削減というの視野に入れる必要がある。また、一つしか指標のない分野もある中で、政策評価の結果に大きな影響を与えるため、何を差し替えるべきなのか判断するのは難しいところではある。

河村委員長

指標を設定することの適切性や評価や目標基準の適切性など、どこまで委員会が立ち入るべきか。何か御意見等はあるか。

#### 窪田副委員長

とりわけおかしい指標や、ぜひ追加すべき指標など、気付いた点があれば意見として出していただければよいのではないかと。一度で審議するのは難しいため、例えば案が出れば、事務局と所管局において調整のうえ、委員会に返していただくなど、何度かやり取りできればよいのではないかと。

#### 河村委員長

委員会の場合だけではなく、気付いた点があれば、年明け早々にでも事務局に投げかけていただき、やり取りをしてもらう、ということで進めたい。

#### 横井委員

政策指標と施策指標においてそれぞれ与える影響度が違うため、指標の設定は慎重にしなければならない。

また、原因が分かりやすい「温室効果ガス排出量削減率」に関するコメントは記載されているが、評価結果の各段階の個数だけではなく、本当はもっと評価結果の分析の記述が欲しいところである。単にC評価が4個から8個に増えたというと相当悪化した印象を受けるが、実際に個票を見ると、数値がほとんど変わらないものもある。今回、京都市では厳しく評価しているという印象を受けている。

客観指標評価では、元々の目標値の設定に無理があると思われるものなど、様々な要因から評価結果が出るため、最終の総合評価は慎重にしていきたいし、評価が変化した特別な事情があるのであれば、その点についてはもう少し詳しく記載してほしい。そのようにしないと、せっかく評価を継続して行っているにも関わらず、当該年度の特殊事情だけによって評価結果が大きく影響を受けてしまう。

#### 事務局

御指摘の点は本市内部でも意見があったところである。例えば、政策分野「文化」では、客観指標に「市民ふれあいステージ」への出演申込件数があるが、それが減少したことによって、政策の評価が下るなど、大きな影響を受けている。

#### 横井委員

また、「歩くまち」の政策指標「公共交通機関について残念と評価した割合」や「住宅」の施策指標「平成の京町家累積認定戸数」など、指標の目標が高いため評価が低くなっているものが見られる。実態にそぐわないリアリティのない数値目標となっているものなど、中には元々の目標設定が適当でないものではないかと。評価結果だけがクローズアップされてしまうと、政策評価の本来の趣旨から外れてしまう。政策

を着実に進めていくべきためには、評価結果に至った状況を含め、評価結果を丁寧に示さないといけない。こういった評価結果のまとめ方ではミスリードしてしまう可能性がある。

#### 事務局

この点も政策評価結果冊子の作成段階において、記載内容の在り方について本市内部で意見があった。4～5ページに渡って簡潔にまとめているが、詳しい説明が求められる一方で、さらに細かく記載するとかえって分かりにくいものとなるということもあり、最終的には現状のまとめ方としている。

#### 横井委員

まとめ方として、一見して分かりやすいところと、詳しいところが必要である。特に、評価結果の変化が顕著なものについては、原因分析の記載があった方がよいのではないかと感じた。

#### 事務局

解説については、御意見を踏まえてより分かりやすいものとしていきたい。

評価結果の分析については、どこまで踏み込んで記載すべきか、御意見などを頂けないだろうか。

また、指標の目標値を下げることは恣意的に捉えられることもあり、この点も御議論いただきたい。

#### 大島委員

平成の京町家については、ある意味で現実的でない目標値となっているが、「環境モデル都市」に関する取組で必要とされているなど、他の取組に影響を受けている事情があるため、悩ましいところである。

#### 窪田委員

個別の客観指標の目標値の設定まで議論するのは、この委員会のスキームでは困難だろう。現在の形式で委員会を開催するのであれば、とりわけ違和感があるものなどについて、気付いた点などを意見として出せばよいのではないかと思う。

ただ、新たなプランの下、政策評価が動き出して数年が経過し、指標を見直すことも考えられる。例えば、来年度は委員会を3回開催し、もう少し指標について議論するというのもありかもしれない。ただし、いずれにせよ、全ての客観指標を取り扱うのは大変という印象を受ける。

指標や目標値の見直しについては理解していない部局もあるのではないかと思うの

で、混乱しない程度に言っていた方がよいのではないだろうか。

例えば、京都府立大学のゼミの活動で「青少年の成長と参加」の関係部局の職員の方にインタビューを実施した際に、指標の目標値が高い点について話をしたところ、指標は指標として考えており、継続して現状の指標に基づき評価を実施していきたいといった思いをお持ちの様子であった。指標の見直しについては、必ずしも全市的意思統一が図られていないのではと思うため、事情によっては見直してもよい旨を周知してはどうか。

#### 風間委員

客観指標の評価が行政の取組に原因があるのか、あるいは行政がいかんともし難い外的要因なのかについては、委員会では判断できない。したがって、特に評価結果に動きのある分野については、目標値の設定理由や外的要因など、出てきた結果についてしっかりと評価票の原因分析において説明を行うべきである。現在、記載があるものもあるが、全体として分析が不足しているという印象を受ける。

#### 横井委員

特に評価結果が悪い分野については、より充実させた記述をするなどしてはどうか。

#### 事務局

評価票の総合評価欄には原因分析も含めて、評価に至った経緯を記載している。委員の御意見のとおり、評価結果だけでは見えないものが大きく、あくまでB評価やC評価というのは目安であり、評価に係る分析が重要と認識している。個々の指標の評価内容について説明をすべきと感じつつも、評価結果として簡潔にとりまとめているもどかしさがある。

ただ、御意見を頂いているとおり、特に評価結果の動きが顕著なものなどについては、原因分析をしっかりと記載するなど、分かりやすい説明となるよう工夫していきたい。

#### 横井委員

逆に言えば、これだけ結果や指標に関するデータが揃っているからこそ、委員会で議論することができている。評価をまとめて、経年で見られるようにしているのは透明性が非常に高くなっているということである。せっかくまとめているのだから、評価結果をどう活かすが重要である。評価結果の高いものの個数を増やすのではなく、具体的な事業等の改善に向け、予算につながる仕組みにしていけないといけない。委員としても、政策評価結果がどのように予算に反映されたのかが見えれば、さらにやりがいがある。

#### 大島委員

政策評価制度を継続していくためには、職員のモチベーションの維持が大切。そのためには、政策評価結果が活用されているということが重要である。

#### 福西委員

主観的な評価をしている自治体もある一方で、他都市に比べて、京都市の評価制度はしっかりしている。評価結果の個数のみを問題とすべきではないし、また、評価が悪化したというが、C評価はほぼ合格であり、決して悪い評価ではない。C評価の政策分野で言えば、「歩くまち」は歩行者と自転車との関係があるが、道路交通法の改正もあるため、今後、様子を見る必要がある。また、「景観」の無電柱化も地域的には進んでいるし、徐々に取組が進んでいる。完成していないからと言って、政策がおかしいということではない。京都市は政策を進めているが、途中段階の状況が分からず、やっていないというイメージを持たれることもある。市民しんぶんなどにより、経過をしっかりと広報し、アピールできるようにすべきである。

#### 横井委員

施策2204の施策指標「無電柱化等による魅力あふれる道路空間の創出」では、昨年度のb評価からe評価に下がり、施策の評価がC評価からD評価に推移した。評価は悪化したがるが、その点を踏まえて、予算の確保に向けて取組を進めるようにしている。評価票のP234まで見ると、そういった経緯が分かるようになっている。

#### 大島委員

無電柱化がなかなか進まない理由には、予算の他にも、地元の合意が取れないといった背景もある。

#### 風間委員

原因分析という項目があるにも関わらず、分析があまり記載されていない。評価結果の悪化には様々な理由があると思うため、予算が確保できなかったなど、評価が悪かった理由を記載しておいてほしい。原因分析を踏まえて、次年度に予算措置を行った場合、次はどのくらい事業が進むのかが分かるし、また仮に予算措置を行ったにも関わらず事業が進まなかった場合、別の理由が明らかになる。評価票の4ページの「人権・男女共同参画」は分析がしっかりと記載されていると思うので、この程度の記述が欲しい。難しい分野もあると思うが、しっかりと分析を記載することで、次の政策の推進につながる。

#### 窪田副委員長

委員から色々な御意見はあるが、全体として、政策評価については順調に実施されていると言えるのではないか。

2点申し上げさせていただく。1点目であるが、政策評価のシステム自体は素晴らしいが、例えば、農林業分野など、関わり方に地域的な偏りがある分野もあるなど、評価結果からは捉えられない部分があるということをしっかりと意識したうえで、総合的な判断を行ってほしい。

2点目の方がより重視していただきたい意見であるが、京都市では京プランの毎年の進捗状況を「京都市基本計画実施状況報告」としてまとめ、市会に報告していると聞いた。政策評価と同様に政策企画室で行っているため、何らかの形で連携させることを検討してはどうか。先ほど御意見のあった、職員の負担感の軽減や一目で結果が分かるといったことの強化にもつながるのではないか。さらに、こういったことを通じて、評価が活用できるもの、意味のあるものといったこととして認識してもらえるとといったことにもつながるのではないだろうか。総合計画の進行管理と政策評価の一体化を図れないかといった問題意識を持ったため、発言させていただいた。

#### 事務局

2点目の御意見については、市会からも同様の御意見をいただいております。検討しているところであるが、実施状況報告と政策評価の連携については、なかなか難しいと感じている。評価結果の分析については、精緻にできる項目とそうでない項目がある。また、実施状況報告と政策評価の全てを関連付けると膨大なものとなり、かえって分かりにくくなるといった課題もある。

委員からの御意見も踏まえ、今後、しっかりと検討していきたい。

#### 河村委員長

政策評価は実施すればするほど課題が出てくると思うので、その都度検討していけばよい。

まず、御意見のとおり、評価票を見ていけば分かるという点は重要なところである。これまでしっかりと実施してきた成果ではないかと思う。また同時に、一目見て分かるということも重要である。市民や市職員、市会議員など、評価結果を見る者にとって、評価結果だけでなく、原因も含めて分かりやすいものになっていることが大切である。そして、次の政策につながるもの、つなげていけるものになっていることが望ましい。

また、客観指標については、逐一の確認はできないが、少なくとも各部局に指標の再考は可能だということ投げかけるということが必要である。

次の議題に移らせていただく。

(3) 市民意見の受付状況

河村委員長

議題(3) 市民意見の受付状況について、事務局から説明をお願いします。

事務局

【資料4(市民意見の受付状況)により説明】

河村委員長

現在、6件の御意見を頂いている。1件目の対応については若干対応に時間を要しているが、その他については順調に対応していただいている。

何か御意見等はあるだろうか。

大島委員

何名からの御意見か。

事務局

お1人からの御意見である。

横井委員

全体として意見が繋がっている。

窪田副委員長

市民意見としては、御要望のほかにも一般的な政策評価の内容を知りたいといったこともあると思う。御意見については真摯に対応しつつ、例えば、「政策評価をもっと知りたい方のために」というホームページを設け、総務省の政策評価や全国の事例などに関するページにリンクさせるなど、より評価制度について知りたい方を誘導するようなことを行ってはどうか。

風間委員

御意見を頂いた方は評価制度をよく御存知という印象を受ける。

横井委員

しっかりと資料を読み、意見を出していただいております、良いことだと思います。

京都市が学校教育を推進している中で、A評価が続いているということについては、

評価が甘いということがあるのであれば、御意見としては真摯に受け止めるべきである。特に学校教育は非常に重要な分野であるため、政策評価のシステムに組み込むのは難しいが、教育委員会における学校評価結果などを含め、常に現状を踏まえた総合的な評価ができるようにすべきである。

窪田副委員長

重複を避けるため、自治体によっては学校評価を優先し、政策評価では教育分野を評価しないところもある。

横井委員

27の政策を全体として広くバランスよく見ていく必要があるため、特定の政策分野のみ掘り下げることは難しい。御意見については真摯に受け止めつつ、政策評価と学校評価の兼ね合いを図っていくということによいのではないか。

政策評価としては、A評価が継続している点も踏まえながら、引き続き、客観指標についての見直しを行っていけばよいのではないだろうか。

風間委員

既に回答をされているが、学校教育を評価する指標に対する問題意識は受け止める必要があると思う。

河村委員長

こうやって御意見と事務局の対応が見えるのは、良いことである。

#### (4) その他

河村委員長

(1) 政策と施策の評価結果の乖離について、事務局から説明をお願いします。

事務局

【資料5（その他）により説明】

河村委員長

補正に関する事務局からの御提案について、今回は決定とまではいかなくても、議論いただければと思う。

御意見等はあるだろうか。

#### 窪田副委員長

乖離が生じることについては、問題でないとは思わないが、そこまで問題意識はなかった。評価で得られる情報を何と考えるかという、気付きのための情報として捉えている。政策と施策にそれぞれ指標がある方が、より素直に気付きがあると考える。政策と施策の評価結果の乖離については、政策が良いが施策が悪い場合、どういった要因があるかなどを考えるきっかけになる。

補正を行うのに困ることがあるわけではないが、現在、政策・施策の大まかな達成状況を捉えるように指標を設定しているのであるから、今のままでよいのではないか。

#### 福西委員

乖離があると評価結果が分かりにくくなると考えている。平成23年度の委員会で問題提起した経緯があるが、政策と施策の評価結果の違いが分かりにくく、うがった見方をすれば、主観が入っていると思われることもあり得る。

#### 窪田副委員長

補足だが、そうすると政策レベルの指標が不要という考え方もある。自治体では、政策レベルの評価を実施していないところもある。

会議前半の議論でもあったが、実務的に把握できて、かつ効果的な指標がなかなか見出せないという中では、どんな指標を置いても政策、施策レベルいずれにも限界があるため、乖離は発生する。両者を兼ね合わせて一見分かりやすくしたところで、余計に複雑になり、より分かりにくくなるといった状況も考えられる。

#### 大島委員

補正の意図は分かるが、こうした乖離の背景を理解していなければ、単に数式を増やして補正を行うことで、評価の仕組みが分かりにくくなる。

#### 福西委員

政策と施策の比率がどうなっているかなどは、一目で見て理解しやすい。市民生活実感調査とは異なり、客観性を保つことができる。ただし、確かに一般の方には数式は分かりにくいかもしれないので、分かりにくさを解消するための方法については検討を要する。

#### 窪田副委員長

政策と施策の評価結果が乖離するものについては、なぜそうなるか、という原因をもう少し記載してもらおう方向での改善を推したい。

#### 風間委員

個別の評価票には、もっときっちりと原因分析を記載すべき。指標の数値がなぜ結果に結び付いているのかが書かれていない。

客観指標は純粹に客観的に選ばれているわけでないため、客観性がそこまで担保されているものではない。乖離が生じた際に、どう説明するのが重要である。

また、あまりに乖離が大きいものについては、政策指標、施策指標のいずれに原因があるのか考えるきっかけとなる。数式に当てはめた場合、そういった問題が見えにくくなり、結果しか見えなくなる印象を受ける。乖離が生じない方がよいといった考え方もあるが、乖離が生じたことについて分析し、説明をする方が政策の改善や見直しにつながりやすいのではないかと感じる。

現状は原因分析ができておらず、説明不足であり、指標の見直しにつながっていないことが問題となっている。継続性も大事だが、一定、指標も見直す時期に来ているため、見直す方法を検討すべき。

#### 横井委員

政策と施策の評価結果を見た目で一致させるやり方は、良い改善だと思う。

前述したが、評価結果は内容が大切とは言え、「C評価が何個」といったことで政策の良し悪しが判断されがちである。そのため、適正な評価ができるのであれば補正も良いと思う。他方、そういった問題点を隠してしまうのでは、といった危惧もある。いずれにせよ、しっかりと原因を分析してもらえるのであればよい。

#### 河村委員長

一委員としての意見だが、現状のままでよいのではないかと思う。

平成22年度以前は施策の代表的な指標を政策指標として設定していたと記憶している。当時の方法は現状とは別の意味がある。

事務局の素案では、単純に計算すると、評価結果の比率が市民生活実感評価が50%、政策指標評価が33%、施策指標評価が17%という比率であり、政策評価における政策指標のウェイトが下がってしまう。この場合、政策指標と施策指標を別々に設定するという現状の考え方とは、ずれてしまうのではないか。素案の方法で行うのであれば、平成22年度以前の方法に戻してしまってもよいぐらいではないかとも思う。

また、評価結果の乖離の状況を見ると、毎年度変化している。その年の出来事を反映している結果であり、それでよいのではないかと思う。

#### 風間委員

客観指標には主観的な要素が含まれているため、どこまで厳密に整えても、指標の

設定自体に問題があれば、あまり意味がないのではないか。前述のように、評価結果が出て、しっかりと分析し、説明することが大事だと思う。

仮に今回、乖離の生じた政策分野「環境」について、数式に当てはめて補正を行い、乖離が解消されたとして、京都市の政策にとってどれだけの意味があるのかなと思う。

#### 事務局

京都市の問題意識は、今回、「環境」で、政策が外的要因に大きく影響を受けた評価結果となっている一方で、政策にぶら下がる施策は行政の取組が直接反映される結果となったことなどから、果たして政策が施策と全く別の観点で良いのかどうかという点である。また、乖離が生じることは、京都市の政策評価が制度として意味があるものになっているのか、というようにも考えている。

これらのことから、今回の補正を行うことで、政策と施策それぞれの指標を用いて評価するという方法を維持できるとともに、評価の安定性といった観点でも一定の効果があると考えている。

#### 横井委員

政策評価の全体の整合性を高めていくうえでは、補正することでよりレベルの高い評価方法になると感じたため、補正に対して肯定した。

補正をすることは、原因分析の説明をしっかりとしたとしても、外的要因に大きく影響される評価結果になるのは仕組み自体がおかしいのではないかと、という問いに対する答えの一つではないかと思う。そういう影響を受けないようにした方が、政策評価全体の仕組みとしては改善するのではと思う。実際に京都市が取り組んだ政策の進捗について、評価を行った方がよいのではないかということである。

#### 事務局

今回、検討の方向性について議論を行っていただき、様々な御意見を頂戴した。頂いた御意見等を踏まえ、市民実感評価と客観指標評価の枠組みを維持しつつも、評価の安定性を確保できる方法を再度、検討してまいりたい。

#### 河村委員長

本議題に関しては、継続審議ということにさせていただきます。

引き続き、(2) 政策評価制度等に関するパンフレットの作成について、事務局から説明をお願いします。

#### 事務局

【資料5（その他）により説明】

河村委員長

その他、京都府立大学のゼミ生と取り組まれている「政策評価制度の広報の充実」について、窪田副委員長から取組の御紹介をお願いしたい。

窪田副委員長

政策評価制度の広報の充実ということで、パンフレットか冊子を独自の視点で作成したいと考えている。盛り込む内容としては、政策評価制度の概要や事務局の仕事の様子、政策評価委員会の関わり、活用方法の話などを想定している。また、委員会を代表して、河村委員長にインタビューに御協力いただく予定である。さらに、特に市民との関わりが大事であり、一般の学生に市民生活実感調査に協力してもらった結果など、いわば箸休め的なページなども考えている。

政策評価については表面的な分析で終わっている現状があるため、評価の良かったもの、悪かったものを少し深掘りし、この客観指標で良いのか、他都市と比べて政策はどうか、といった点も書いていきたいと考えている。

1, 000冊程度の作成を見込んでいるが、京都市情報館へのリンクの掲載など、配布先についても検討していきたい。毎年度作成するのは難しいと思うが、市民の方に「こういった視点で政策評価の情報を見てほしい」といったことを示すものになればよいと考えている。今年度中の完成を予定している。

河村委員長

完成を非常に期待している。よろしくをお願いしたい。  
他に御意見等はあるだろうか。

(意見なし)

御意見等がなければ、最後に事務局から何かあるだろうか。

事務局

本日は貴重な御意見等を頂き、誠にありがとうございました。

次回は2～3月に開催を予定しており、乖離に関する改善案や市民生活実感調査の方法等について御審議いただく予定をしている。また、本日の内容等についてお気づきの点があれば、随時、事務局までお寄せいただきたい。

河村委員長

これにて閉会とする。

(以上)